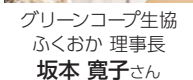


一般社団法人グリーンコープでんき

「送料金認可取消訴訟」に取り組むことを通して、脱原発社会の実現へ向かいます

第一審を経て、第二審へ
私たちの主張を司法に届けましょう！

2016年9月8日、
原発の廃炉費用や東京電力福島第一原発事故の賠償にかかる費用を、政府が託送料金に上乗せしよ
コープはそれを受け、これらの国民負担について国会で審議されず、経済産業省令で決めたことは違法であり、しかも国民



ん話し合い、不安を一つ
づつ解消していきました。

2年半の検討の末、2
020年2月12日に共同
体臨時社員総会を開催
し、活発な質疑応答と意
見交換を経て、訴訟を起
こすことを決定しました。

「おかしい」ことは
「おかしい」と主張する

託送料金裁判は、第9
回期日まで行われまし
た。本来であればたくさ

どんな参加者が増えていき
ました。グリーンクラブ
からもたくさん参加して
いただき、グリーンコー
プ全体でこの訴訟を支え
ていることを実感できる
ようになりました。

裁判では毎回弁護団が
資料を使って説明を行
いました。報告集会では、
裁判に参加するだけでは
理解が難しい文言なども
丁寧に教えてもらうこと
で、私たち参加者の理解

理事会を開催し、今後について検討。控訴することとを決め、5月23日に控訴理由書を福岡高等裁判所に提出しました。

私たちの中に培われてきた訴訟への思いに改めて立ち返り、今から始まる「私たちの裁判の第二章」をみんなで支えていきたいと思います。

※グリーンコープの納入業者の会。一般社団法人グリーンコープでんきの社員でもある。

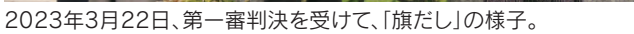
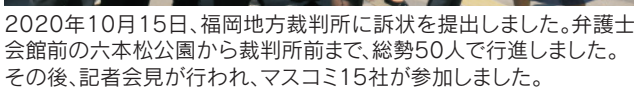
グリーンコープ生協ふくおか
北九州地域理事長
安部 百々さん

け取っていたとお話しました。すると、そのような気持ちであつた私が訴訟に向かつていったのは、どういう変化があつたのかと尋ねられました。

気持ちが変わつたきっかけは、弁護士による学習会や組合員同士の意見交換の場などに参加したことです。弁護士の方から、裁判とは「おかしいな」「変だな」と思ったこ

り、その権利を私たちは持つているというお話を聞き、だんだんと気持ちが変わっていったことをお話しました。

長い時間をかけて組合員検討を行ってきたことやその時の思いなどを取材していただき、3月20日の新聞記事になりました。

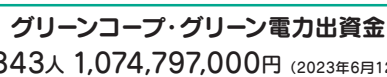


「原発を稼働させたら、電気代が安くなる」このような情報を耳にするようになりましたが本当でしょうか。

政府は「発電コストは安く、CO₂を排出しないクリーンなエネルギー」だと、原発推進に大きく舵を切りましたが、実際は現在の原発を維持するための費用や原発から発生する核のごみ処理費用に加え、その最終処分方法も決まっておらず、電気代が安くなるどころか国民の負担は増えていく一方です。何より原発事故が起されば、大切な暮らしと環境がどうなるのか、私たちは身をもって知っています。

地球の生命^{いのち}を守り、みどりの地球をみどりのままで子どもたちに手渡すために、今を生きる私たちが日本のエネルギーについて考え、原発フリーの電気を選択することが求められているのではないのでしょうか。私たちの暮らしに欠かせない電気だからこそ、原発事故の恐ろしさを知っている日本だからこそ、「原発でつくる電気はいらない」と声をあげていきましょう。

グリーンコープ共同体組織委員会



「原発の電気ではなく、自然エネルギーでつくった電気を使いたい」という
願いをかなえるために、グリーンコープ・グリーン電力出資金に協力しましょう

発電所名	発電電力量 (kWh)	定格出力 (kW)
神在太陽光発電所	77,300kWh	1,057kW (309世帯相当)
平池水上太陽光発電所	145,218kWh	1,260kW (368世帯相当)
深年太陽光発電所	91,403kWh	1,550kW (453世帯相当)
グリーン未来ソーラー発電量	21,474kWh	定格出力376kW (110世帯相当)
若宮物流センター太陽光発電所	5,031kWh	定格出力47kW (14世帯相当)
広島物流センター太陽光発電所	5,289kWh	定格出力47kW (14世帯相当)
グリーンコープやまぐち生協 西部地域本部太陽光発電所	5,445kWh	定格出力54kW (16世帯相当)